

弔 辞



略 歴

昭和10年6月11日生まれ
昭和29年3月 私立日彰館高等学校卒業
昭和33年3月 立命館大学法学部卒業
昭和33年4月 神戸市市役所勤務
昭和35年2月 川崎製鉄勤務
昭和37年4月 臨済宗南禅寺派虎溪山専門道場
(多治見市)にて禅修行
昭和39年4月 盈進高等学校(福山)勤務
昭和47年4月 広島県立日彰館高等学校勤務
昭和57年4月 広島県立上下高等学校勤務
昭和60年4月 広島県立高宮高等学校勤務
平成 2年4月 広島県立日彰館高等学校勤務
平成 8年3月 退職
平成 8年4月～平成22年4月
広島県日彰館同窓会事務局長
平成23年4月～ 広島県日彰館同窓会副会長
平成25年4月～ 広島県日彰館同窓会会長

謹んで日彰館同窓会会長塚本和順様の御霊前に、惜別の言葉を申し上げます。突然のご逝去にご家族の皆様の悲しみはいかばかりかと心からお悔やみ申し上げます。任期半ばでお別れすることになり大変残念でなりません。

会長は長年の教師生活の後半、昭和 63 年より日彰館同窓会に関わっていただきました。日彰館創立 100 周年記念誌『百年の歩み』の中、「三篇 新制高校」「四篇 県立高校」を執筆され、その後、平成 8 年より本部同窓会の事務局長を、14 年間お勤めいただき、その後常任理事、副会長、平成 25 年からは会長として創立 120 周年記念事業を遂行されました。事務局長時代には 105 周年、110 周年、その他の記念事業を企画立案され遂行されました。

近年は、地域の少子高齢化が同窓会や高校に大きな影響を及ぼすようになりました。それらに対応するため、会長は同窓会会員、地域に密なる情報発信を行い、また有効な学校支援を実施されてきました。将来に向かって一定の形が出来つつあった中、とても大事な財産を失ってしまいました。

同窓会活動で会長との出会いは、平成 8 年次期当番幹事研修でした。当時の流行のワープロを駆使して總會資料、決算資料など、沢山の記録を蓄積していただきました。そのことが現在の事業や行事の基礎になっていると思います。清楚で穏やかなお人柄は私どもの心にたくさんの思い出をいただきました。さまざまな難題に対し相談に伺った時も、書院にて作法にこだわることなく、まず薄茶を頂き、いつの間にか穏やかな気持ちになり、静かにお話できるようになり、解決に至ったように思います。同窓会に関する、歴史、資料、逸話、先輩訓などなど、会長から教えていただくことはたくさんあるのに、聞くことが叶わなくなりました。

闘病中は大変お辛いことだったとお聞きしております。訃報を聞き、駆けつけ、ご自宅にお帰りになられた時のお顔は誠に安らかで、唇に紅差す笑顔さえ感じられる、生前と変わらないご様子でした。長い間の同窓会へのご協力、ご尽力に衷心より感謝申し上げます。会長のご冥福とご家族様のご安寧をお祈り申し上げます。

願わくば同窓会へのご加護をお願い申し上げ弔辞とさせていただきます。

平成 27 年 9 月 10 日

日彰館同窓会会長代行
同窓会副会長 春田佳伯